

[インデックスに戻る](#)

## 7. 式と証明

### 7-1. 式と計算

#### 7-1-2. 分数式とその計算

##### 7-1-2-1. 分数式

$A$ 、 $B$ を多項式とし、 $B$ が定数でないとする。この $A$ と $B$ を用いて

$$\frac{A}{B}$$

の形で表される式を分数式という。

分数式の計算では、次の性質が成り立つ。

$A$ 、 $B$ 、 $C$ を多項式とする。 $B \neq 0$ 、 $C \neq 0$ のとき

$$\frac{A}{B} = \frac{AC}{BC}$$

(例)

$$\begin{aligned} \frac{1}{x(x+1)} &= \frac{x+2}{x(x+1)(x+2)} \\ \frac{(x+1)(x+2)}{x(x+2)} &= \frac{x+1}{x} \quad \dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

上の①のように、分数式の分母と分子を、それらの共通因数で割ることを約分という。また、それ以上は約分できない分数式を既約分数式という。

[インデックスに戻る](#)